

# 日刊 勤労千葉

84. 7. 21

No. 1696

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 津沼で7.17総決起集会を密催

7月17日（17時30分）津田沼電車区構内において「臨調・国鉄攻撃粉碎、職場規律―執務態度厳正攻撃粉碎 7・17勤労千葉総決起集会」が開催され四七〇名の組合員が結集し、怒りの総決起集会として圧倒的な成功が勝ちとられました。

津田沼電車区の中庭には、各支部の動員者がぞくぞくと結集、年輩者も多数参加し、熱気あふれる集会となりました。 そうしたなかで集会参加者全員による真底からの怒りをたぎらせて国鉄当局にむけてシュプレヒコールをたたきつけ、戦闘宣言を発しました。

「首切り」「基地統廃合」攻撃に、  
断固たる反撃の闘いを

――中野委員長が基調報告――

総決起集会は、重見特執による司会で進められ、開会宣言にたった水野副委員長は「7月10日だされた『余剰人員の調整策』はまさしく生首切り攻撃だ。『60・3ダイ改』も焦点化しており、国鉄労働運動解体攻撃が開始された。現在労務管理が強まっており、この集会を期して反撃に決起しよう」とあいさつしました。

続いて本集會に中江昌夫船橋市議もかけつけ、共に闘う決意と7・29反核・護憲集會参加が訴えられました。

集會の基調報告にたった中野委員長は、7月10日国鉄当局から出された「余剰人員の調整策」の3本柱である、1.退職条件の改悪、2.願休制度の改悪、3.外部出向について当局の狙いとこの攻撃が一九四九年における定員法以来の攻撃であることと。仁杉総裁発言「60・3ダイ改」における二万五千人合理化攻撃は「骨身を削って働く」と労働強化を要求するに至った動労「本部」革マルの存在を前提にはじめてなりたつものであることを厳しく弾劾しました。

「自民党との共闘」「経営参加」  
「労働強化要求」「謀略・タレコミ」の  
動労「本部」革マルを粉碎・一掃しよう！

そして、冬の時代―働こう運動―骨身をけずる運動―自民党との共闘を進め、敵の手先となることによつて、動労千葉・国労への破壊攻撃を強めてきている動労「本部」革マルを打倒して、何としても国鉄労働運動を防衛し、国鉄労働者の利益を守りぬいといかねばならないこと。

また「60・3ダイ改」では検修の台検廃止や基地統廃合攻撃がかけられている。とりわけ、狙いが新小岩・蘇我・成田・佐倉・勝浦等に焦点化さ



れてきていること。

当局と動労「本部」革マルが結託して千葉局内への乗り入れを狙っており、その意味で7・9月は重要な時期をむかえている。

敵は中曽根であり、三里塚も二期強行にうってきている。今こそ反撃にうってよう。三里塚と国鉄の闘いは今日の集會を突破口としなければならぬ。現在かけられている職場規律の攻撃を支部に集中し、支部をあげて当局と闘うことが重要である。ことが鮮明に提起され、全体の拍手で確認されました。

10・10空前の大決起をもつて、  
今秋三里塚―国鉄決戦にうってよう！

基調報告後に一時健康を害してしばらく休養中であつた布施書記長、吉岡交渉部長から復帰の決意が述べられ、次に津田沼支部・山下支部長、成田支部・大須賀書記長から決意表明が行われ、構内デモと山口副委員長による閉会宣言、団結ガンバローをもつて終了しました。